

Title	ウィリアム・S・サクス著 独立戦争前の北部植民地農業の状態
Sub Title	Sachs, William S., Agricultural conditions in the northern colonies before the revolution
Author	中村, 勝己
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.7 (1955. 7) ,p.569(71)- 570(72)
JaLC DOI	10.14991/001.19550701-0071
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550701-0071

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

註(1) 次に掲げる表は一九二九年の總配給費に関する五氏の評價である。

(單位一〇億ドル)

	Galbraith & Black	Weid	Engle	Stewart Dewhurst	Converse
小賣商業	一三・八一	一四・〇	二五・二〇	一二・六	一三・八
卸商業及中間業者配	七・〇	六・〇	六・五—七・〇	七・〇	七・六
製造業者配	三・六	三・〇	七・〇—八・〇	九・一	一〇・五
給費其他の配			一・五—二・〇	一・〇	二・二
給費					
小計 (除輸送費)	二四・四	二三・〇	三六・五—三九・〇	二九・七	三四・一
輸送費		四・〇	三・五—五・〇	八・八	五・五
合計		二七・〇	三〇・〇—三三・〇	三八・五	三九・四

(2) 配給費に関する限り最も權威ある資料を發表している Twentieth Century Fund は次の如くその意見を表明している。「配給の分野を全體としてみると、此の過程が費用の大いにかかるものであることは明らかである。しかし乍ら何の程度をもつて多過ぎるとなすかは斷言しえない。吾々は確信をもつて配給には無駄があると云いうるが、しかし吾々は全體としてその一%も削減しえないであらうし、又その一部分すらもこれを節約しえないであらう。吾々は配給は生産に比して多少とも浪費的であると云うことすら或るいは云えないかもしれなう」。(Twentieth Century Fund, Does Distribution

(9) エプスタイン氏の調査は次の如く報告している。即ち一九二四年から一九二八年に関する限り製造業の場合では、資本金一七二、〇〇〇ドル以下の小企業の平均利益率は一一・三%、これに反し一、三五〇万ドルの資本金を有する大企業では一〇・四%、卸商業では、一三八、〇〇〇ドル以下の小企業は一一・二%、二〇〇万ドル以上の大企業は九%、小賣商業では八九、〇〇〇ドル以下の小企業は一二%、七〇〇万ドル以上の大企業は一四・三%とある。Dean Ralph C. Epstein, Industrial Profits in the United States, (National Bureau of

Economic Research, 1934), pp. 243, 316, 321.

(7) Twentieth Century Fund, Does Distribution Cost Too Much? p. 123. (片岡 一郎)

ウィリアム・S・サクス著

『獨立戦争前の北部植民地農業の状態』

Sachs, William S., Agricultural Conditions in the Northern Colonies before the Revolution. *Journal of Economic History*, Vol. XIII, No. 2. Summer 1953. pp. 274~290.

植民地時代末期の經濟變動の問題を解明する爲には、植民地經濟の重要な部門たる農業の状態を獨立戦争に先立つ二〇年間に亘つて分析する事が必要である。佛印戦争時代は好況期とされてゐるが、一七五五—一七五九年の農産物価格は變らないのに對して、他の殆んど凡ての商品価格は昂騰し、農民の支出は明白に増大してゐる他方、所得は遅れを示してゐる。一七五九—一七六〇年の農産物価格の著しい上昇による農業の繁榮は、一七六一年及び翌年の旱魃により中絶し、賃銀下落に悩む都市の下層民及び債務を負ふ農民から不満が上つたが、特に邊境からは救済を求める請願が議會に溢れた。一七六三年のポンティアックの叛亂は邊境就中ペンシルヴェニアの邊境を苦境に陥れた。この農業不況は同時に農民——農産物を輸出する都市商人——イギリス商人といふ關係を次々と悪化せしめた。

書評及び紹介

他方戦後の不況は事態を一層悪化したとは云へ、農業に著しい影響を與へなかつた。一七六三年には總ての重要な農産物価格は戦時より高く、畜産物の缺乏(特に軍需用の其れ)は痛感された。一七六四年になつても海外市場は貧弱だつたが、餘剩農産物の主要市場が外國市場だつたにも拘らず、國內市場の生活資料價格が維持されたのは何故か。私拿捕の停止、豊作、戦後の運賃・保険料の下落によつて海外貿易は急激に増大した。アメリカの輸入業者はアメリカに商品運んだ船舶が空荷で歸るよりは復航貨物を満載するを有利と考へた。斯くてかかる貿易の伸長は農産物の強力な需要を創出して行つた。

戦後の農民の困難は不作によつて所得が減少した時に經濟的負擔が増大した爲である。特にニュー・イングランドの農業生産力が低く、通貨収縮政策がしわ寄せされた地方では税の負擔は重く暴動さへ起つた。中部では農村の租税負擔は必ずしも重かつたとは云はずニュー・イングランドの様な性質の不満は見られない。ペンシルヴェニアの騷擾(一七六四年)の原因は西部のインディアンとの係争、土地投機及び公債の支拂にあり、ニュー・ヨークの借地農の暴動(一七六五—一七六六年)は彼等の土地所有を阻んだ大土地所有からの解放を企てたもので、經濟的困難とは結び付いてゐない。一七六三年以降の豊作、ニュー・ヨークやフィラデルフィアに於ける國內品の價格(騰貴)と輸入品價格との背馳による農民所得の増大が見られる。農産物・畜産物及び鹽・糖蜜・ラム酒・農機具・衣料品等の價格を検討すると、農民の支出は單位産出當り收入に關して減少してゐる。一七六九年以後は商人も好況を取戻し、農民も農産物

價格の絶對的・相對的騰貴により繁榮に與つた。

一七六四—一七七五年の農産物價格の騰貴は主として海外需要の増大による。イギリスは一七六四年の不作を境に食料の輸入國に轉じ、議會はアメリカ穀物の免税輸入を許すべく穀物法を改正(一七六六年)し、イギリス商人は増大する内外の需要に應じてアメリカの食料品を求めた。一七六五—一七六九年のニュー・ヨーク就中フイラデルフィアの輸出額増大は主に南歐向穀物の輸出増大によるものであるが、ボストンの其れは西印度向輸出の増大の爲である。

扱て我々は同時代人の意見を分析せんとする時、史料の制約から、農民でなく、時には農民の利益に正面から對立する人々の證言に依存せねばならない。植民地の煽動者が「人民の貧困」を論じ農民の慘狀を豫言したのは政治的意圖あつての事である。砂糖條令が修正され印紙條令が廢止された後は、農業不況についての發言は止み、不満は都市から、物價騰貴・食料缺乏及び生活費昂騰に關して起つた。ニュー・ヨークでは或る者は農業従事者増大による農産物價の引下げを論じ、或る者は歐洲への小麦等の輸出によつて農民は都市の貧民の犠牲に於て富んでゐると非難し、更に他者は穀物輸出の禁止を要求した。併し植民地議會は食料品價格の騰貴を止める何等の有効な措置をとらず、市民の抗議は續けられた。併しかかる抗議は決して人道主義的・博愛主義的なものから出たのではない。重商主義者は生計費乃至生活水準の低い事は生産費を低下させるに有利であると考へたし、納税者は物價を騰貴させる救貧税の昂騰を喜ばなかつた。商人は物價の高いのを嫌ひ、農民の貪欲を非難した。併し手工業者 *artisans and mechanics*、小職場主及び不熟練労働者

は生計が困難なので議會の食料品價格の騰貴を抑へる措置を支持した。マサチューセツツは小麦及び小麦粉生産に奨励金を與へたが、之は輸出向ステーブルの生産を發展させ、併せて食料自給を計らんとしたものであつた。地方的消費を統制し、市民の不満を取除かんとしたのは市政府であつた。ニュー・ヨーク市は安價に食料品を供給する公設市場制に失敗して、小賣價格を低下させる嚴重な規制措置に着手した。ボストンもニュー・ヨークに倣つて公設市場制を強化した。併し乍ら賣手市場は投機を刺戟し、商人は食料品が市場に到着する前に買占めんとした爲屢々重大な食料不足を惹起した。この爲ボストンでは一七六九年に買占を防ぐ方法を研究する爲の委員會が設けられた。又一七七二年にデヤーマンタウン(この住民は主に職人)からペンシルヴェニア議會に宛てた請願書もかかる事情を述べ買占禁止を要望してゐる。重商主義者の凡ての他の型の法令が徐々に崩れつつあつた時に、この點のみが市政府によつて強化されたのは異とするに足りない。本稿に於ては食料品價格をめぐる對立のものについては觸れない。ここでは、不満は殆んど全く都市から起つたものであつて、農民は不況の犠牲者ではないといふ事實を指摘するに止める。全人口の九〇%が直接農業によつて生計を立ててゐる事を思へば、パリ平和條約から獨立戦争迄の時期には、大部分の所得者は繁榮してゐたと考へてよいであらう。(中村 勝己)

經濟學關係文献目録

(昭和三十年二・三月刊)

理論・學說史・經濟思想

- * 所得・貯蓄・消費者行爲の理論 デューゼンベリ著 大熊一郎譯 B 6 一七八頁
- 二三〇圓 (巖松堂)
- * 基本經濟通論 商經基本全集11 山田勇・江見康一著 A 5 二〇八頁 二八〇圓
- (春秋社)
- * 經濟思想發展史5 近代經濟學 スピーゲル編 越村信三郎・佐藤豊三郎監譯 B 6 三三八頁 三二〇圓 (東洋經濟新報社)
- * 資本蓄積論 下 青木文庫 ルクセンブルグ著 長谷部文雄譯 A 6 一八七頁 八〇圓 (青木書店)
- * 反デューリング論 エンゲルス著 村田陽一・寺澤恒信譯 A 6 三〇九頁 一二〇圓 (國民文庫社)
- * 經濟成長の過程 ロストツ著 酒井正三郎 北川一郎譯 A 5 三三四頁 五〇〇圓 (東洋經濟新報社)

經濟學關係文献目録

* 所得分配と賃銀構造 篠原三代平著 B 5 一六二頁 二二〇圓 (岩波書店)

* 現代經濟學の展望2 經濟學說全集14 高橋長太郎・山田勇編 A 5 三九一頁 三〇圓 (東洋經濟新報社)

* 經濟學研究1 一橋大學一橋學會編 A 5 三五六頁 四〇〇圓 (勁草書房)

* ローザ・ルクセンブルク その生涯と業績 エルスナー著 杉山忠平譯 B 40 二四六頁 一五〇圓 (理論社)

* 社會科學の諸問題3 ソヴェト研究者協會編 A 5 一五八頁 二八〇圓 (大月書店)

* 經濟學の方法に關する研究 岩波文庫 メンガー著 福井孝治・吉田昇三譯 A 6 二七六頁 一二〇圓 (岩波書店)

* 帝國主義戦争の諸原因 ウェンコ著 南信四郎譯 B 6 二〇四頁 二二〇圓 (三一書房)

* 經濟恐慌 | その理論と歴史 | エルスナー著 千葉秀雄譯 B 6 三五二頁 三六〇圓 (大月書店)

* 經濟學の基礎 東大學術叢書 横山正彦著 B 6 小 二三二頁 二五〇圓 (東京大學出版會)

財政・金融・保險・證券

- * 金融の基礎知識 高橋龜吉著 A 5 四五頁 三九〇圓 (白桃書房)
- * 財政學教程 改訂 井藤半彌著 A 5 二六三頁 三八〇圓 (巖松堂)
- * 財政學 3訂版 井藤半彌著 A 5 二六六頁 三二〇圓 (千倉書房)
- * 金融讀本 改訂版 東洋經濟新報社編 A 5 二九五頁 二七〇圓 (東洋經濟新報社)
- * 金融總論 改訂版 現代商學全集29 山口茂著 A 5 二七四頁 三五〇圓 (春秋社)
- * 占領下日本の財政問題 占領下の日本資本主義叢書 青木文庫 日本資本主義研究會編 A 6 二六五頁 一一〇圓 (青木書店)
- 商業・經營・會計
- * 原價計算入門 コスト引下げの爲に 今井忍著 B 6 三一五頁 二九〇圓 (同文館)
- * 稅務會計講座2 財務諸表論 青木倫太郎著 A 5 四三二頁 五〇〇圓 (稅務經理協會)